

いつもと違う夏休みだからこそ 子どもの気持ちに思いをはせて ～視点共有メッセージを活用した出会い～

今年度の夏休みは、約3週間と例年より短く、新型コロナウイルス感染予防対策のため、帰省や旅行に行けず、外へも気軽に出かけられずいつもと違う夏休みを過ごした子どもも多いのではないのでしょうか。

2学期最初に子どもたちと出会う始業式の日、「視点共有メッセージ」を使って、子どもたちの心にぐっと近づいてみませんか？



視点共有メッセージとは…
子どもの気持ちを言語化することで子どもを承認する方法
「あんな子もいるよね」「こんな子もいるよね」

準備

クラスの子どもたちの顔を思い浮かべて、それぞれどんな夏休みを送っていたか想像する。



〇〇くんはずっとお家で妹と一緒にいたかしら
〇〇さんは泳ぐのが好きだけど、今年は海には行けなかったんじゃないかしら ………

実践

2学期の始業式の日子どもたちと出会ったら、視点共有メッセージで話す。



(例)「皆さんはどんな夏休みを過ごしていましたか？」
・2学期が始まって、学校に行くのを楽しみにしていた人もいるよね。
・あー夏休みが終わる、もっと休みたいなと思っている人もいるよね。
・夏休み中に、やりたいことを見つけて、取り組んだ人もいるよね。
・ずっと家にいた人もいるよね。
・毎年泳いで日焼けしてたのに、今年はあまり日焼けしなかった人もいるよね。

先生は
自分がこの夏休み
どのように過ごしたか
分かってきている！



プラス 大切なのは 先生の自己開示



先生自身も夏休みを語りましょう！
(例)「私は、夏休み、日の出前に犬の散歩をしていました。昼間と違い、朝は本当に涼しくて、車も人もいなくて、とても気持ち良かったです。明けの明星(金星)がキラキラと輝いて、とてもきれいでした。」



「認められ感」を高める魔法のことは

存在・行為・過程を認める

子どもたちが、「学校に来るのが楽しい」「また明日も学校に行きたい」と思えるようにするために、学校生活で「来てよかった」という体験を積み重ねることが大切です。学習や行事、生活の場面で、「〇〇ができた」という結果に目が行きがちですが、子どもの存在を認めること、取り組んでいることやその過程に着目することで、子どもたちは「先生は分かってくれている」「認めてくれている」と思えます。

承認とは…

「私はあなたの存在をそこに認めている」ということを伝える
すべての行為, 言葉

存在承認

- 見る
- 挨拶
- 肯定的な思いを伝える
- 強みを言う
- 名前を呼ぶ
- いいところを伝える

行為・過程承認

- 事実を伝える
- 励ます
- 感謝を伝える
- 取り組んでいる過程を承認

結果承認

- ほめる
- 賞を与える

(例)

- ・おはよう よう来たね
- ・あなたらしくていいね
- ・あなたがいてくれてよかった
- ・〇〇さん
- ・〇〇がいいところだね

(例)

- ・取り組んでいるね
- ・そんなことに気づいたんだね
- ・チャレンジしているね
- ・やったかいがあったね
- ・ありがとう

(例)

- ・よくできたね
- ・本当によく頑張ったね
- ・できるようになったね
- ・結果につながったね

できていることに着目
小さなプラスの変化を見逃さない

「何を言うか」はもちろん大事ですが、表情やしぐさの「非言語」も大事。笑顔で、ゆったり、相手に伝わるように！

先生の承認の声かけは
子どもたちのモデルになります！



参考文献 稲垣友仁「コーチングの3つのスキルを学ぶ 承認」児童心理 6月臨時増刊, 金子書房 2010

連絡先: 高知市教育研究所教育相談班 TEL 088-832-4498・4497